



Dairy Sustainability Framework

2025-2030  
戦略プラン

## 議長のあいさつ:

デーリー・サステナビリティ・フレームワーク (DSF) の第2次5カ年戦略プランを皆様と共有できることを大変嬉しく思います。

2013年にDSFを立ち上げて以来、酪農乳業セクターは持続可能性を我々の事業の中心に据えるために着実な前進をしてきました。酪農乳業は、10億人の生活を支え、健康的な食生活の一部として牛乳乳製品を摂っている60億人以上の人々に質の高い栄養を提供するなど、壮大なスケールで世界中の人々の生活に影響を与えています。我々が将来に向けて強靱であり続けるためには、我々の気候変動への影響を軽減し、気候変動に適応しつつ、その役割を守ることが不可欠です。

DSFは、会員がその地域で最も重要な優先評価項目を特定し、改善プログラムを実施し、明確かつ一貫した方法で進捗状況を確認することを支援します。この体制により、進捗報告書に信頼性が生まれ、我々の集団としての努力が評価され、認識されるようになります。

年次進捗報告は、引き続き事業の要です。年次進捗報告は、我々が直面している課題と我々の進捗状況をグローバルに把握することを可能にします。また、さらなる投資とイノベーションの根拠となるエビデンスをもたらします。11のDSF評価項目についてデータを報告するDSF会員の貢献がこれを可能にしています。DSF役員を代表して、このプロセスに投入された努力とコミットメントに感謝いたします。それは、我々が酪農乳業セクターとして共に前進するためのに必要な信頼性の基盤でもあります。

DSF事務局の献身に感謝します。彼らの舞台裏での努力により、DSFの効率的かつ効果的な管理が実現しています。彼らの献身なしにはDSFは今のレベルの結果を出すことはできませんでした。

同様に、マルチステークホルダーDSF諮問委員会の役割は非常に貴重です。彼らの洞察は、特に新興酪農経済地域において我々の視野を広げ、我々の影響を最も必要とする地域に焦点を当てるのに役立ちます。こうした外部の声に耳を傾けることは、会員の活動にとってもDSF自体にとっても不可欠です。

最後に、私は仲間の役員に感謝します。彼らのリーダーシップは、2025-2030年戦略プランを作成する上で中心的な役割を果たしてきました。彼らは、バランスよく、幅広い活動を奨励したり、組織全体の士気を高めたりしてきました。彼らの指導により、我々は、酪農乳業が責任ある生産部門であり、世界の食料システムの主要な構成要素の1つであることを示し続けています。

今後数年間の進展を皆様と共有し、世界の酪農乳業セクターの持続可能性を継続的に改善する旅を共にすることを楽しみにしています。



ドナルド・ムーア  
デーリー・サステナビリティ・フレームワーク 議長



## はじめに

**世界の酪農乳業セクターは、大きな岐路に立っています。伝統に彩られたセクターでありながら、ダイナミックな変化の時代を確実に迎えています。酪農乳業は、変化する社会的期待、環境への対応の緊急性、進化する市場要求に直面しており、かつてないほど変化の波に囲まれています**

この変化にも変わらないことが1つあります。それは、当セクターの継続的改善への専心です。デーリー・サステナビリティ・フレームワーク (DSF) は、この取り組みの深い影響を理解し、酪農乳業が測定可能で意義のある方法でいかに持続可能性を前進させているかを示す重要な役割を果たしています。

DSF戦略プラン2025-2030は、役員のリダーシップ、マルチステークホルダー諮問委員会の助言、および世界中の会員の強さによって得られた10年にわたる進捗に基づいています。さらに、それらは当セクター全体の持続可能性に関する報告の質、幅、透明性を向上させました。しかし、この戦略プランは継続することに留まりません。進捗が遅れているところでの行動を加速させ、複雑な課題に対する組織全体の理解と解決策の特定を進め、見過ごされがちな地域に支援を振り向けるよう呼びかけています。

「持続可能性」が複雑になるにつれ、ステークホルダーは、持続可能性に含まれる様々な課題点そのものだけでなく、それらの相互関係の重要性も認識するようになってきています。このことへの対応として、DSFは、フレームワークの屋台骨である独自の11の評価項目の見直しを行いました。見直し作業により、それらの適正性を再確認した一方で、それぞれの項目に含まれるテーマの拡大を認識でき、セクターが前進する中で最も影響力のある分野に焦点を当て続けられるようになりました。

次の段階では、新興酪農経済地域を持続可能性に関する会話に参加させるために新しく立ち上げたステージ1会員制度も正式に導入されます。これらの会員は、能力開発と知識共有により、DSFの方法論に沿う自身の確固とした持続可能性プログラムを開始する準備を整えることができます。これにより、DSFは、データ収集機能をはるかに超える、進歩、結束、変革のためのグローバルなプラットフォームであることが強調されることとなります。

当戦略プランに基づいて成果を上げるには、大胆なパートナーシップとスマートなコラボレーションが必要です。セクター全体で資金が圧迫される中で前進する唯一の方法は、エビデンスに基づき、目的に向かって推進される集団的イノベーションです。当戦略プランは、総合的な協議プロセスの結果であり、DSFのために日々働いている方達によってまとめられました。当戦略プランは、セクター内全体のモチベーションと、持続的で前向きな変化を推進する我々の組織的な力に対するDSF役員らの自信を反映しています。



# DSFの基盤

## DSFは、世界の酪農乳業セクターのための持続可能性の測定と報告の仕組みです

### ビジョン:

天然資源を保護し、業界全体で適切な生計を確保しながら、健康な牛と水牛から安全で栄養に優れた製品を供給する能力を継続的に向上させることを託された活力ある酪農乳業セクターを前進させる

2013年に開始したDSFは、世界の酪農乳業セクターが、良質な栄養物の生産者として、環境的、社会的、経済的な影響と責任を認識しながら発展させてきました。あらゆる形態の食品生産と同様に、酪農乳業は、天然資源に依存し、温室効果ガスを排出し、サービスを提供する人々に影響します。当セクターは、責任ある、より持続可能な方法で事業運営する必要性を認識しています。重要なのは、地域や発展段階に関係なく、すべての酪農乳業関係者が意義ある改善に貢献できるということです。

酪農を含む、生物が関わる環境で操業する農業の重要課題の1つは、システムの進化による継続的な改善を定量化することです。DSFは、持続可能性の環境面、社会面、経済面の、11の世界的な持続可能性の評価項目に高いレベルの指標測定基準を適用することで対応しています。

DSFの会員は、DSFの手順を取り入れ、自身の地域で特定した優先評価項目に基づく改善プログラムの実施に取

り組みます。会員は毎年、指標測定基準を用いて進捗状況を測定し、DSFに報告します。このデータは、DSFの年次進捗報告書作成のために集計する前に、検証プロセスを経ます。進捗状況の確認と同様に重要なのは、進捗が少ない地域を特定することで、これにより、セクターが主導して戦略的に対応したり、支援先を絞ることができ、最終的にバリューチェーンの強靭性を高めます。

DSFは、非競争的で協力的な環境で活動しており、酪農乳業バリューチェーン全体で1,000以上の組織を統合しています。DSFは、プラットフォームの共有と継続的な知識交換を通して、持続可能性への取り組みのペースを加速させ、その効果を増幅させます。

酪農乳業のステークホルダーが、国、一般企業、顧客などからの幅広い報告要求の圧力が増えている中、DSFは独自の метод論を提供しています。これにより、国の発展における酪農乳業の貢献についてのFAOの最近の調査報告などの新たな研究を裏付ける、エビデンスに基づく進捗概要が毎年得られます。

業界の観点では、持続可能性は競争の争点ではなく、事業経営の基本要件であり、継続的な改善への注目や説明責任、積極的取り組みが必要となります。DSFの年次報告は、この理解の醸成が反映されています。

2024年現在、DSFは世界の生乳生産の約30%分（公式取引生乳の50%分以上）について持続可能性の進捗を報告しています。この高い割合は、セクターの持続可能性に対する集団的で透明性のある取り組みを反映しています。

以下の表は、持続可能性の3本柱に属する11の「評価項目」、各評価項目の「戦略的意図」、すなわち酪農乳業セクターが世界的に目指している達成状態、そして、DSF会員が優先評価項目に指定した各項目について毎年報告する際の「指標測定基準」を示しています。最後のカラムは、DSF事務局に報告する内容についての詳細説明です。

評価項目	戦略的意図	指標測定基準	報告
<b>経済</b>			
 <b>市場開発</b>	酪農乳業バリューチェーンの関係者が、透明で効果的な市場の開発を通して、経済的に実行性のある事業を構築することができている。	生産者に市場の機会と課題を知らせるプロセスが整備されている。	「はい/いいえ」を報告する。 生産者に伝えるために使用している手段を報告する。
 <b>農村経済</b>	酪農乳業セクターが酪農家と農村の強靭性と経済の活力に貢献している。	生乳の対価として酪農家に支払われた年間支払総額。計算は「年間乳量（トン 固形分）」x「年間平均乳価」	酪農家に支払われた年間支払総額を報告する（使用通貨を記載）。
<b>環境</b>			
 <b>温室効果ガス(GHG)排出</b>	バリューチェーン全体のGHG排出量が定量化され、経済的に実行可能なあらゆる手段で削減されている。	GHG排出量を「 <a href="#">酪農乳業セクターのためのIDFカーボンフットプリント世界基準</a> 」の最新版を用いて算出している。	2年に1度、実施している活動を事例報告書式（書式を参照）により報告する。 3年に1度、GHG排出量を算出する。ただし、DSFは現時点で報告は求めていない。
 <b>土壌養分</b>	土壌の質を維持・向上させることに配慮しつつ水や大気への影響を最小限に抑えるため、養分の施用が管理されている。	生産量の向上および水と大気の汚染削減のための「土壌養分管理計画(NMP)」が実施されている。	会員が個別の状況を考慮してNMPの必要項目を定める。NMPを実施している酪農場の数を報告する。
 <b>土壌の質と保持力</b>	土壌の質と保持力が積極的に管理され、最適な生産性を確保するために強化されている。	「土壌管理計画(SQMP)」が実施されている。SQMPは「土壌養分」の要件を含めてよい。	会員がSQMPの必要項目を定める。SQMPを実施している酪農場の数を報告する。
 <b>水の可用性と水質</b>	水の可用性と水質が、酪農乳業バリューチェーン全体で責任をもって管理されている。	<b>農場レベル:</b> 水質への影響を最小限に抑えるために「排水管理計画(EMP)」が実施されている。 <b>乳業レベル:</b> 製造や加工処理における水の利用率が測定されている。	<b>農場レベル:</b> 会員が個別の状況を考慮してEMPの必要項目を定める。EMPを実施している酪農場の数を報告する。 <b>乳業レベル:</b> 「水の利用率（製品1kgを生産するのに必要な水の体積（リットル）」の平均値と範囲（最高値と最低値）を報告する。
 <b>生物多様性</b>	直接的および間接的な生物多様性のリスクと機会が理解され、それを維持・強化するための戦略が確立されている。	酪農場およびバリューチェーン全体を通して生物多様性を保全、回復、改善するために「生物多様性計画」が実施されている。	会員が「生物多様性計画」の必要項目を定める。「生物多様性計画」を実施している酪農場の数を報告する。
 <b>廃棄物</b>	廃棄物の発生が最小限に抑えられ、やむを得ない場合は再利用および再資源化されている。	<b>農場レベル:</b> 「廃棄物管理計画(WMP)」が実施されている。 <b>乳業レベル:</b> 年間埋立廃棄物量。	<b>農場レベル:</b> 会員がWMPの必要項目を定める。WMPを実施している酪農場の数を報告する。 <b>乳業レベル:</b> 年間埋立廃棄物量（トン）を報告する。
<b>社会</b>			
 <b>飼養管理</b>	乳用牛が注意深く扱われ、飢え、渇き、不快、苦痛、怪我、疾病がなく、比較的通常の行動様式をとれている。	家畜の健康状態を把握するために「体細胞数(SCC)」を測定している。 DSFは、SCCから新しい指標「家畜の健康・福祉計画」の実施と毎年の見直しに移行しつつある。	12ヶ月間のSCCの平均値、標準偏差、測定回数を報告する。 SCCを報告せずに「家畜の健康・福祉計画」の実施率を報告することも可能。2027年3月からは、「家畜の健康・福祉計画」の実施のみが進捗報告の対象となる。
 <b>労働条件</b>	酪農乳業バリューチェーン全体で、労働者が安全な環境で作業しており、労働者の権利が尊重され、積極的に確保されている。	労働者の安全を確保するために「農場安全計画」または「施設安全計画」が実施されている。	<b>農場レベル:</b> 会員が「農場安全計画」を実施している酪農場の数を報告する。 <b>乳業レベル:</b> 会員が「施設安全計画」を実施している乳業工場の数を報告する。
 <b>製品の安全と品質</b>	製品の最適な栄養、品質、安全性を守るために、酪農乳業バリューチェーンの誠実さと透明性が確保されている。	A 「製品の安全性評価とリコール計画(PS&RP)」を保持している。 B 保持している場合、報告対象期間中に公開リコールを何回したか？	会員がPS&RPの必要項目を定める。 A: 「はい/いいえ」を報告する。 B: 報告対象期間中の公開リコールの回数を報告する。

# DSF ステージ 1 会員制度

**GDP と IFAD（国際農業開発基金）による2年間の共同出資プロジェクトとして開始したステージ 1 制度は、資金が極端に限られている酪農乳業組織や持続可能性の旅を始めたばかりの酪農乳業組織のために設立されました**

DSF とステージ 1 会員が実行プログラムとスケジュールについて合意し、その上で、ステージ 1 会員が「DSF の手順」を実施するのに必要な能力を獲得するよう DSF が全面的にサポートします。

個々の組織のニーズに応じて、ステークホルダーへの関与、目標設定とスケジュール、改善プロジェクトの計画、優先項目評価などに一緒に取り組みます。

目標は、ステージ 1 会員が、できるだけ早期に自信を持って正規の実行会員に移行することです。

この制度は、DSF 事務局、DSF 会員や諮問委員会メンバーの貴重な貢献によって設立され、インド全国酪農開発委員会によるインドでの試験事業と、ジンバブエ酪農家協会によるジンバブエでの試験事業によって軌道に乗りました。





# DSF のリーダーシップ

国際的に活動するDSFは、「地域特性」の重要性を認識しています。そして、それらが「DSFの手順」や各種プログラムの策定・実施において確実に組み込まれるように懸命に取り組んでいます。このことにより、世界を代表する酪農乳業のリーダー達がDSFの運営の主体となっています。

GDPの専務理事が議長を務めるDSF理事会が、年2回招集され、戦略や実施についての承認と、目標に対する進捗状況についての詳細な評価をします。

## DSF 理事会

DSF理事会は、以下の組織のCEOまたは部門統括責任者によって構成されます。

- デーリー・アジア
- デーリー・オーストラリア
- 東部・南部アフリカ酪農乳業協会
- 欧州酪農協会
- パンアメリカン酪農連盟
- GDP\*
- イノベーションセンター・USデーリー
- IDF\*
- SAI プラットフォーム\*
- 世界農業者機構\*

## エグゼクティブ・ワーキング・グループ (EWG)

エグゼクティブ・ワーキング・グループは、DSF理事会の下部組織（「\*」を付記した組織が参加）で、定期的に会合を開き、DSFの戦略の実行に関してDSF事務局を戦略的にサポートします。

EWGは、新たな問題を分析し、必要に応じて優先順位を付け、DSF理事会に活動提案をして検討を求める権限が与えられています。具体的な事業プログラムについて承認できるのは、DSF理事会のみです。



## 諮問委員会（ADCO）

ステークホルダーへの関与と傾聴は、DSFの理念の重要な一部です。会員にとっても、DSF理事会にとっても、ステークホルダーとの関わりは、戦略構築や「正しく」変化することへの投資に不可欠です。DSFマルチステークホルダー諮問委員会（ADCO）は、DSFの将来の成功に不可欠であり、当戦略プランを含むさまざまな策定における助言が非常に大きな助けとなっています。ADCOは、IDFの会長を議長とし、以下の組織によって構成されています。

- ALDI ストア
- アメリカ人道協会
- 環境防衛基金
- FAO
- 持続可能な牛肉のためのラウンドテーブル
- IFCN
- 国際畜産研究所
- ラボバンク
- ザ・ネイチャー・コンサーバンシー
- 世界銀行
- 世界自然保護基金

ADCOは、対面会議とオンライン会議をそれぞれ年1回開催します。そのうちの1回（基本的には対面会議）はDSF理事会と併せた日程で開催されます。他にも、特別案件のための活動が随時行われます。

ADCOは、DSFの諮問委員会としての役割に加え、SAIプラットフォームが進める「持続可能な酪農パートナーシップ（SDP）」と緊密に連携していることから、SDPの諮問委員会としても活動しています。

## パートナーシップ

DSFが戦略目標を達成するためには、パートナーシップが不可欠です。実際、DSFは、酪農乳業組織とADCOの間のパートナーシップと協力を依存しています。DSFがパートナーシップを重視しているその他の組織は以下のとおりです。

- デーリー・アジア
- パンアメリカン酪農連盟（Fepale）
- FAO
- 持続可能な畜産のためのグローバルアジェンダ（GASL）
- GDP
- 農業温室効果ガスに関するグローバル・リサーチ・アライアンス（GRA）
- 持続可能な牛肉のためのラウンドテーブル（GRSB）
- 米州農業協力機構（IICA）
- 国際商業会議所
- 家畜環境評価プログラム（LEAP）
- インド全国酪農開発委員会（NDDDB）
- 酪農乳業ネットゼロへの道筋（P2DNZ）
- SAI プラットフォーム
- ノッティンガム大学
- 世界農業者機構
- ジンバブエ酪農家協会



## 当戦略プランの構造

### DSF理事会は、当戦略プランの実行を推進するための3つの優先領域を特定しました。

3つの優先領域は、以下の通りです。

- 成果の提示と報告方法の改善
- 低所得国（LMIC）や新興酪農経済地域の参加
- DSF資金調達モデルの拡充

理事会は、目標を明確にした実施プログラムを策定するために、前回の戦略プランの5つの実行分野を維持することにしました。

5つの実行分野は、以下の通りです。

- 報告とコミュニケーション
- 拡大と充実
- 会員の実行と支援
- 連携と関与
- 資金調達と実行計画

これら5つの実行分野には以下が含まれています。

- 5年間にわたる計18の活動・実施項目

5つの実行分野それぞれについて、5年間にわたる優先実施項目が設定されています。これらの優先項目の実行は、DSF事務局の責任で進められます。完了日は、戦略の柱ごとに短期、中期、長期に分類されています。

- 2026 – 6件の実施項目
- 2027 – 4件の実施項目
- 2028 – 3件の実施項目
- 2029 – 1件の実施項目
- 2030 – 4件の実施項目

定期的な進捗報告書はDSFエグゼクティブ・ワーキング・グループに提出され、戦略プランの範囲を超える戦略的決定が必要な場合は理事会に照会されます。

# 戦略プラン実行の 基盤となる

## 3つの優先領域:

- 1 成果の提示と報告方法の改善
- 2 低中所得国や新興酪農経済地域の参加
- 3 DSFの資金調達モデルの拡充

詳細な個別実行スケジュールは、2026年の実施項目に適用されます。

# 報告とコミュニケーション

当戦略プランは、既存のDSFのデータに価値を付加し、報告の成果を高める方法を模索することに関するコミュニケーションに重点を置くことで、酪農乳業の持続可能性の全領域にわたる継続的改善のナラティブを強化します。新たな重点領域は、持続可能性-栄養のナラティブをサポートする栄養指標の候補を特定するための共同の取り組みに関することです。

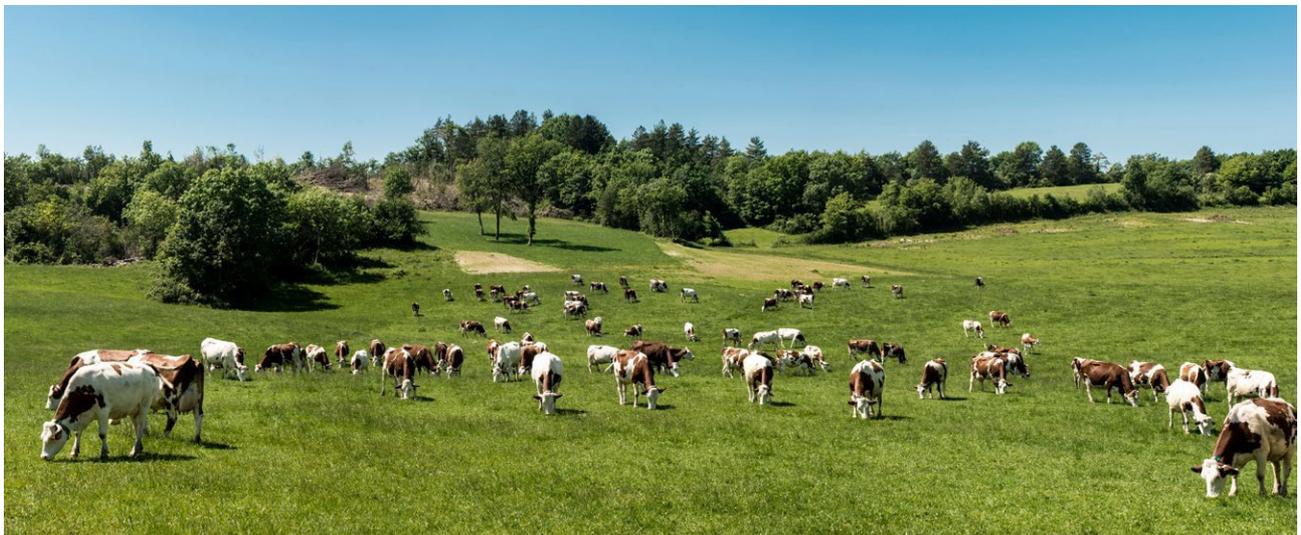
	活動項目	目標	方法	期限
1	DSFのナラティブを共有するためのソーシャルメディアの効果的な活用	ソーシャルメディアの効果的かつ本格的な使用のためのDSF年間計画の策定	年間コミュニケーション計画の実行	2026 第1四半期
2	P2DNZの報告要件の明確化	P2DNZの進捗に関するDSFの報告の要件の明確化	要件および手順の明確化、DSF理事会の承認による実施計画の確定	2026 第3四半期
3	DSF年次進捗報告の各項目の質向上	DSF年次進捗報告の質を高める方策の検討	DSF開発グループによる見直し、改定案の作成とDSF理事会への提出	2026 第4四半期
4	地域での進捗について報告する機会の設定	DSF年次進捗報告に地域での取り組み事例を盛り込むことの利点ならびに必要な手順の評価	提案内容の確定、DSF会員への共有、意見集約、DSF理事会での検討	2027
5	酪農乳業の持続可能性のナラティブを構築するためのデータ活用のレベル向上	DSFの集約データが酪農乳業の持続可能性のナラティブを後押しする可能性の明確化	DSFの集約データの新たな解析方法に基づくナラティブの強化  DSFのグローバルな対話での活用とDSF会員による地域に合わせた活用の双方に適したデータ解析結果	2030
6	「人の栄養」をDSFの報告に盛り込むことの是非および方法の検討	「人の栄養」の指標の利用可能性に関する(既存の活動に結び付けた)調査	DSF理事会での検討に必要な栄養の指標の利用可能性についての根拠を得るための調査の実施	2030



# 拡大と充実

DSFは、現在、公式に取引された世界の乳牛の生産量の50%以上を報告対象としています。会員を増やし、持続可能な酪農乳業システムの実現を加速するためには、特に新興酪農経済地域の中から有望な地域と協力者を特定することで適切に資源配分をすることが重要です。

	活動項目	目標	方法	期限
1	世界各地の DSF 会員候補の詳細調査	将来の戦略策定のための、世界の公式市場と周辺の生産地域についての適切な理解	調査の完了、DSF 理事会および DSF 会員への結果の提出	2027
2	低中所得国の DSF 会員候補の探索	目標を絞った行動計画を必要とする会員候補の調査	戦略的成長行動計画を実施するための候補地域と実施に必要な資源（パートナーシップを含む）のリスト化	2028



# 会員の実行と支援

今回の戦略期間では、特に新興酪農経済地域とその固有のニーズに注目しつつ、DSFの成果の提示について再評価することを優先させます。また、既存のDSFの知識共有の仕組みの有効性・影響力の評価や、拡大展開可能な持続可能性に関する取り組みをサポートするための将来的な支援ツール開発の必要性の調査を行います。

	活動項目	目標	方法	期限
1	先進国と新興酪農経済地域の双方のニーズを考慮した、会員のためのDSFの成果の提示方法の改善	既会員、会員候補とも活用できる 確実に簡潔な成果の提示	成果の提示方法のDSF理事会による評価	2026 第2四半期
2	DSFの知識共有方式の評価	既存の方式をどのように強化できるかを明確に示す評価	評価の実施と結論/推奨事項の導出、DSF理事会への報告	2027
3	試験事業の成果に基づくステージ1実行プログラムの改定強化	現行の実施プロセスを改善するための試験事業の成果の整理と評価	ステージ1試験事業の更新・改善	2027
4	取り組みの拡大展開や食料安全保障、GHG排出、生計、リスク管理の優先度設定に関する会員へのサポート	DSF会員が特定したこれらのニーズ分野をカバーする支援ツールの整備	各項目に最適な方法で開発されたツール	2028
5	政策立案におけるDSFのツールの使用	地域の政策立案におけるDSFのデータの活用方法や積極的な関与についての報告について会員をサポートするツールの提供	政策立案への関与を支援するツールの開発	2028



# 連携と関与

当戦略プランでは、世界の酪農場のほとんどが混合農業システムで運営されていることを認識しつつ、農産物全体に共通する持続可能性の課題についても理解しています。つまり、酪農の持続可能な発展を促進するためには、他の農業セクターとのつながりを強化することが不可欠です。サービス産業を含む友好関係にあるセクターへの関与は、農業セクター全体で影響力のある変化を加速させ、拡大展開を促すことを目的としています。

	活動項目	目標	方法	期限
1	他の農業セクター（特に畜産）や持続可能性分野での活動とのつながり、関与、連携	適切な関与と、連携による相互利益が期待される分野の特定	候補のセクターや活動との関係性や共通の作業分野についてのリスト化	2029
2	新興酪農経済地域とのパートナーシップへの注力	DSFの参入を促進するための「地元」関係者との連携プログラムの確立	多数のパートナー（特に、アフリカ、アジア、ラテンアメリカ）との連携関係構築	2030
3	DSFのデータを別の活動で活用する機会の探索（「報告とコミュニケーション」の#6と直接連動）	DSFのデータは、DSF年次進捗報告以外にも活用の価値をもたらす	DSFのデータの他の活動での活用についての調査	2030



# 資金調達と実行計画

DSFの戦略的事業の成功には、効果的な資金調達モデルの探索と活用が不可欠です。重要な優先事項は、ステージ1試験事業の拡大展開を含むDSFの活動の拡大を可能にする目的別の事業資金を確保することです。

	活動項目	目標	方法	期限
1	用途限定のステージ1資金を調達するモデルの確立	専用資金によるDSFステージ1会員のサポート	ステージ1試験事業専用の事業計画と資金調達モデルについてのDSF理事会の承認	2026 第4四半期
2	成長前提のDSF資金調達モデルの開発	適切なDSF資金調達モデル	資金調達モデルの実行についてのDSF理事会による承認	2026 第3四半期



## ビジョン

天然資源を保護し、  
業界全体で適切な生計を確保しながら、  
健康な牛と水牛から  
安全で栄養に優れた製品を供給する能力を  
継続的に向上させることを託された  
活力ある酪農乳業セクターを前進させる

0255 W. Higgins Road  
Suite 820  
Rosemont, IL 60018  
USA

*Effective December 1, 2025,  
our mailing address will change:*

6133 N. River Road  
Suite 200  
Rosemont, IL 60018  
USA

[info@dairysustainabilityframework.org](mailto:info@dairysustainabilityframework.org)

[www.dairysustainabilityframework.org](http://www.dairysustainabilityframework.org)

 [dairy-sustainability-framework](https://www.linkedin.com/company/dairy-sustainability-framework)



Dairy Sustainability Framework